

守山城趾 守山区市場



築城時期・創建者ともに不詳。
天文4年(1535)12月、尾張攻略のため約1万の軍勢を率いてこの地に布陣した松平清康(徳川家康の祖父)が、陣中で家臣に殺害され、主を喪った松平勢は崩れて守山を落ちていきました(「守山崩れ」)。享年25歳。
この事件をきっかけに松平氏による三河支配が崩壊し、松平家は苦難の道を歩むこととなります。
守山城はその後、織田信光・信次(信長の叔父)、信時(信長の弟)が城主となり、桶狭間の戦いの後、廃城になったとされています。

宝勝寺

松平清康の菩提を弔うため、寛永14年(1637)、大永寺七世 大溪良沢(小幡城主岡田重頼の子)が守山城趾に建立。
大正5年(1916)、愛知県の大正天皇御大典記念事業により、本堂北側に城趾碑が建立されました。



大永2年(1522)、岡田重篤の築城と言われています。
一時廃城となっていたとされますが、天正12年(1584)小牧・長久手の戦いの折に徳川家康が修復して入城し、三河と小牧山とのつなぎの城として重要な役割を果たしました。
その後、再び廃城となり、寛文年間(1661~1673)には既に松林・畑になっていたと記されています。

生玉稻荷神社 守山区小幡中三丁目

秀吉が布陣した龍泉寺からは直線距離でわずか約2.6km。
現在でも、本丸跡付近から龍泉寺周辺一帯を望むことができます。



小幡城の守護神。
小牧・長久手の戦いの折に家康が立ち寄り、家臣から稲荷山の竹で作った旗竿を献上され、大いに喜んだと伝えられています。

龍泉寺 守山区竜泉寺一丁目



延暦年間(786~806)、伝教大師最澄の創建と伝えられ、熱田神宮の奥の院とも称される名刹。
小牧・長久手の戦いの折、羽柴秀吉(後の豊臣秀吉)が布陣。
退却時に寺堂に火を放って消失させましたが、慶長3年(1598)、密蔵院(春日井市)二十九世 秀純が再興しました。

国指定重要文化財の仁王門と木造地藏菩薩立像のほか、円空作の馬頭観音、千体仏五百数十体等を所蔵。
境内には昭和39年(1964)建設の宝物館「龍泉寺城」があり、寺宝が多数展示されています。

※宝物館は日・祝日のみ開館



龍泉寺より南西方面の眺望

庄内川の渡し

勝川の渡し

現在の勝川橋のやや上流、庄内川を歩いて渡れる場所で、古くは「徒歩川(かち川)」と呼ばれていました。
小牧・長久手の戦いで家康が龍源寺(現大清寺、春日井市)で小休止した際、「勝川」の地名を聞いて縁起が良いと喜んだとされています。

家康が村人から供された牡丹餅を食べようとすると箸が折れ、「不吉な…」となるも「天下は一本に成るの吉兆」と言われて笑顔に



大日の渡し

禪源寺大日堂(春日井市)と志段味を結ぶ渡し。第一隊 池田恒興隊、第二隊 森長可隊が渡河。

野田の渡し

密蔵院の南の野田と吉根を結ぶ渡し。第三隊 堀秀政隊が渡河。

松河戸の渡し

現在の松川橋のやや上流、松河戸(春日井)と川村を結ぶ渡し。第四隊 羽柴秀次隊が渡河。

天野信景「尾州古城志」享保十年 河村秀根本

守山城

城墟東西三十二間、南北廿八間 一重堀。
自村西戌方、九十間
津田孫十郎
一書云清康公、天文四年構砦、十二月五日横死于此云々、城墟自村坤 云々

小幡城墟

東西百十間、南北六十間 東西二重堀、北切岸、大永年中築之云々
岡田与七郎 織田源次郎
岡田助右衛門、其子長門守、当村産
称岡田地在田名



「長久手合戦図」(名古屋市蓬左文庫所蔵)

守山区と徳川家康

もりやま 歴史浪漫紀行

小幡森山の城墟たづねれば、
曲阜むかしを残して、麦浪風
空しくわたる
天文の変、天正の乱、
人疲れ、馬汗せし跡にや
織田豊臣の栄え衰え給ひしも
知らぬ世の昔語りとなりనికి

天野信景「塩尻 卷之十八」